

知多半島5市5町の人口概観

日本福祉大学経済学部 准教授 加茂 浩靖

1. はじめに

『知多半島が見えてくる本』第1号に5市5町の人口概観が掲載された1998年から10年以上が経過した。この期間に日本は人口減少を経験し、また全国規模での市町村合併いわゆる平成の大合併が生じ、全国に約3,200あった市町村が2013年1月時点で約1,700に減少した。愛知県でも88から54に市町村が減少した。ところが、知多半島ではこの期間に合併した市町はなく、現在でも1998年と同様に5市5町で構成されている。

以下では人口概観を紹介するが、その資料としてここでは国勢調査を用いた¹⁾。ただし、知多半島では1957年から1969年の期間に、市町村の編入・合併がいくつか発生したので、これ以降の時期(1970年～)のデータを用いて人口に関する分析を行った。

2. 人口の動向

2010年における知多半島の人口総数は615,088人である。これは、愛知県の人口7,408,499人の8.3%に相当する。知多半島の人口は愛知県においては8.3%にすぎないが、愛知県以外の県と比較すると人口第47位の鳥取県に匹敵する。図1にみるように、1985年以降、鳥取県では人口

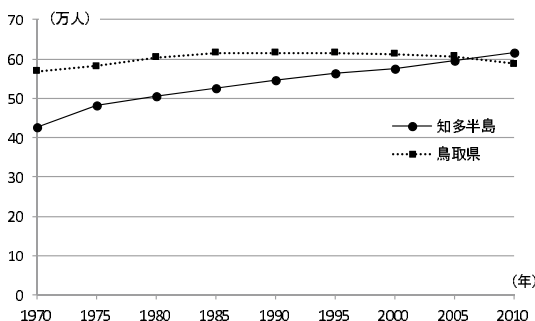


図1 知多半島5市5町の人口の推移
資料：国勢調査各年版

が減少、知多半島では増加で推移し、2010年時点で知多半島は鳥取県(588,418人)を約2.7万人上回っている。

人口が多い順に5市5町を並べると、半田市11.9万人、東海市10.8万人、大府市8.5万人、知多市8.5万人、常滑市5.5万人、東浦町5.0万人、武豊町4.2万人、阿久比町2.5万人、美浜町2.5万人、南知多町2.1万人である。『知多半島が見えてくる本』第1号の資料(1995年)と比較すると、知多市と大府市の順位が入れ替わり、人口が最少だった阿久比町が美浜町や南知多町より多くなった。

1970年を100とした人口指数をグラフにしたのが図2である。知多半島全体では1970年から2010年の期間に人口が145まで増加している。とはいえ人口変動には市町間の差が大きく、知多市で213、東浦町で204と約2倍に増加しているのに対して、南知多町で74と、この期間に人口が減少していることがわかる。

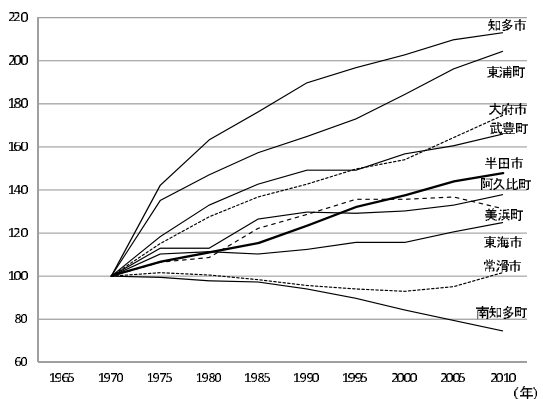


図2 知多半島における市町別人口の推移(指数)

注) 各市町の1970年の値を100とする。

資料：国勢調査各年版

知多半島は名古屋市のベッドタウンとしての役割も担っている。この特徴は名古屋市に近い半島北部で特に顕著で、図3に示すように「名古屋市で就業する就業者の構成比」が東海市では20%

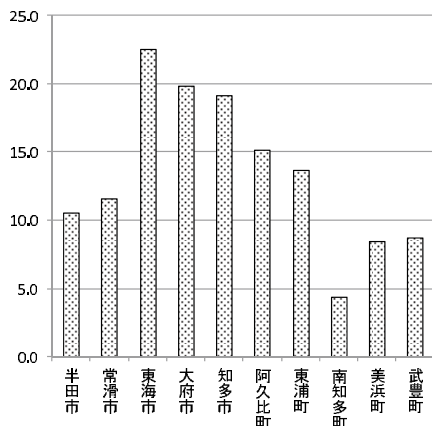


図3 名古屋市中で就業する就業者の構成比 (2010年)
 注) 名古屋市中で就業する就業者÷当地に常住する就業者×100
 資料: 国勢調査

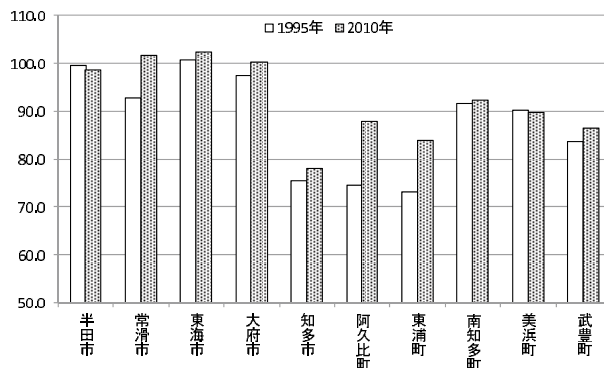


図4 昼夜間人口比率
 注) 昼夜間人口比率=昼間人口÷夜間人口
 資料: 国勢調査

を超え、大府市、知多市、阿久比町では15%を超えている。ベッドタウンとしての特徴は図4からも読み取れる。図4は昼夜間人口比率を示しているが、1995年をみると東海市を除く9市町で100.0未満を示し、夜間人口が昼間人口を上回っている。特に、住宅開発が進展した知多市、阿久比町、東浦町では昼夜間人口比率が70%台と非常に低い。他方、1995年と2010年で比較すると昼夜間人口比率が10市町平均で87.9から92.2へ上昇するという変化が認められる。常滑市では、昼間人口が8,679人増加し、昼夜間人口比率が92.8から101.8へと100.0を超えるまでに上昇している。これは中部国際空港の開港に伴う常滑市での従業者の増加を反映していると思われる。

3. 知多半島における高齢化

図5は、人口に占める65歳以上人口の割合の推移を示している。1970年に6.0%であった知多半島の65歳以上人口の割合は、2010年には20.2%にまで上昇した。ただし、2010年の全国値が22.8%であるから、全国と比較すると高齢化の進展がやや遅いといえる。

図6は65歳以上人口の割合を市町別に示している。最も高い南知多町で29.6%、これに次ぐ常滑市で23.6%、阿久比町で22.9%であり、この3市町では全国値の22.8%より高く、高齢化が比較的進んでいる。これに対して、半田、東海、大府、東浦、武豊の5市町では65歳以上人口の割合が20%未満と比較的小さい。

高齢化の状況は、1995年と2010年の知多半島の人口を年齢階層別に示した図7からも見て取

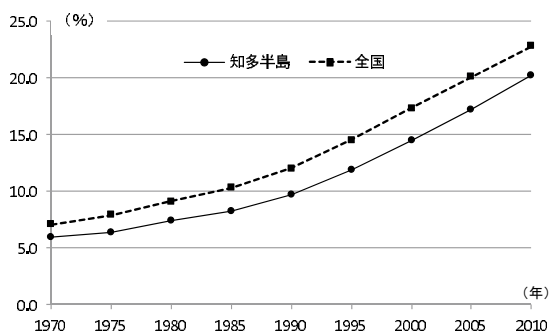


図5 65歳以上人口割合の推移
 資料: 国勢調査各年版

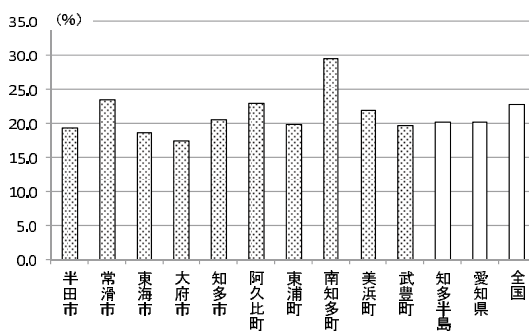


図6 市町別にみた65歳以上人口の割合 (2010年)
 資料: 国勢調査

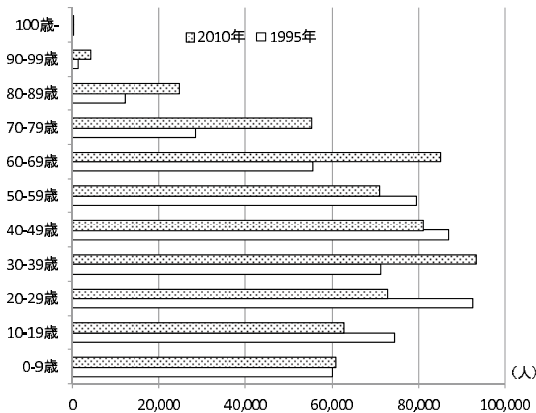


図7 知多半島における年齢階級別人口
資料：国勢調査

れる。1995年と2010年で比較すると、60-69歳以上の年齢層で人口が増加している。これに対して若年層では10-19歳と20-29歳にみるように、人口が減少している。ただし、0-9歳ではこの15年間で802人増加していて注目される。

4. 知多半島に居住する外国人

1990年代以降の日本社会の変化の1つは国際化の進展である。その具体的な変化は日本に居住する外国人の増加である。1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改正による在日日系人の増加、「外国人研修制度」の改正等による発展途上国からの研修生・技能実習生の増加がその一因である。特に、東海地域などの労働力不足が深刻な工業地域において、ブラジル、ペルー国籍を中心とする日系外国人や、中国国籍を中心とする研修生・技能実習生が増加した。

知多半島においても外国人の増加が顕著になったのは1990年以降である。1985年から1990年の5年間に外国人は2,302人から2,581人へと279人の増加にすぎなかったが、1990年から1995年の5年間では1,749人、1995年から2000年の5年間では1,181人増加した。

図8は人口に占める外国人の割合を市町別に示している。外国人割合は知多半島全体で1.5%を示し、全国の1.3%を上回っている。全国値を超えるのは、東浦町2.4%、大府市1.9%、半田市1.7%、武豊町1.3%、知多市1.6%の5市町

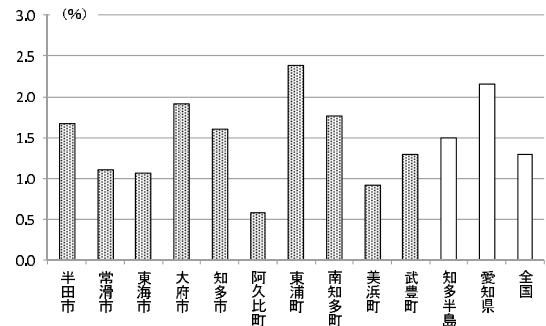


図8 市町別にみた外国人割合（2010年）
注）人口に占める外国人の割合を示す。
資料：国勢調査

である。

注目されるのは居住する外国人の主要国籍が市町によって異なる点である。表1にみるように、半田市、常滑市、東浦町、武豊町ではブラジル国籍所有者が外国人の40%以上を占めている。特に東浦町ではブラジル国籍が56.6%を占める。これに対して、東海市では韓国・朝鮮国籍をもつ外国人が35.3%、阿久比町、南知多町、美浜町では中国国籍をもつ外国人がそれぞれ38.0%、82.9%、36.2%と最大のウエイトを示している。全国的には、外国人の国籍は韓国・朝鮮25.7%、中国27.9%、ブラジル9.3%という構成であるが、知多半島では韓国・朝鮮15.0%、中国20.0%、ブラジル32.6%であるから、工業

表1 国籍別にみた外国人割合（2010年）

	単位:%				
	韓国・朝鮮	中国	ブラジル	ペルー	その他
半田市	16.5	14.0	42.0	3.7	23.8
常滑市	14.3	16.5	41.4	0.8	27.0
東海市	35.3	20.8	6.4	1.2	36.3
大府市	14.9	21.8	24.1	4.5	34.8
知多市	8.2	16.4	33.2	8.3	33.9
阿久比町	19.3	38.0	14.7	0.0	28.0
東浦町	5.5	12.1	56.6	2.9	23.0
南知多町	2.5	82.9	1.4	0.8	12.4
美浜町	25.4	36.2	18.5	0.4	19.4
武豊町	8.6	10.9	47.3	1.8	31.4
知多半島5市5町	15.0	20.0	32.6	3.5	28.9
愛知県	20.0	20.9	25.3	3.4	30.3
全国	25.7	27.9	9.3	2.2	34.9

注）各市町に常住する外国人の総数を100とした値。
資料：国勢調査

地域としての特色がこの外国人構成に反映しているとみることができる。

注

- 1) 国勢調査（調査期日：平成 22 年 10 月 1 日）
における不適正な事務処理が判明した東浦町については、国勢調査の値をそのまま用いた。
不適正な事務処理の経緯等については総務省 Web サイトを参照。http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01toukei03_01000005.html, 2013 年 5 月 9 日.

文 献

日本福祉大学知多半島総合研究所：『知多半島が見えてくる本』日本福祉大学知多半島総合研究所，(1998)